

事務事業名	放課後児童クラブ維持管理事業		所属部局	保健福祉部		単位番号	5137					
			所属課室	子育て支援課		課長名	藤巻喜代子					
	☒ 実施計画事業		所属担当	児童		担当者名	深沢百合					
基本政策	基本計画体系	IV	快適で心のかよいあう都市づくり		予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目
政 策		17	社会福祉の充実		事業区分	01	一般	03	02	01	040	09
施策		28	児童福祉の充実			☐ 国の制度による義務的事業 ☒ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☐ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金						
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 15 年度） ☐ 期間限定複数年度（ ～ 年度）		法令根拠	児童福祉法 南アルプス市放課後児童クラブ条例								
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 市内19箇所ある放課後児童クラブ施設の維持管理事業。 児童館併設5、学校敷地内単独施設4、他管理施設借用8、単独専用施設2。 施設設備消耗品・光熱水費・修繕費・電話料・警備委託・清掃委託・浄化槽維持管理委託・CATV受信料・備品購入費等の管理。					事業費の主な内訳（ 24年度 決算見込）						
						項目(細節)		金額(千円)	項目(細節)		金額(千円)	
						需用費		2,934	備品購入費		377	
						役務費		525				
						委託料		1,152				
					使用料及び賃借料		106					
					工事請負費		592	計		5,686		

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
24年度活動実績	施設維持管理事務
25年度活動予定	施設維持管理事務 将来的な児童クラブの在り方について検討
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
放課後児童クラブを開設している施設	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
利用する児童及び指導員が、安心・安全に過ごせる施設にする。	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
危険のない安全な施設となる。	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 放課後児童クラブの設置数	ヶ所
イ	
ウ	
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 活動している放課後児童クラブの数	ヶ所
イ	
ウ	
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 放課後児童クラブへの登録児童数	人
イ 放課後児童クラブの延べ実績利用者数	人
ウ	
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 利用中の事故件数	件
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	23年度 (決算・実績)	24年度 (決算見込・実績)	25年度 (予算・目標)	26年度 (次年度計画・目標)	27年度 (計画・目標)	28年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円	3,195	4,416	2,773	2,773			
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	2,800	1,270	2,733	2,733			
	人件費		事業費計 (A)	千円	5,995	5,686	5,506	5,506	0	0	0
			正規職員従事人数	人	2	2	2	2			
			延べ業務時間	時間	2,112	2,112	2,112	2,112			
			人件費計 (B)	千円	8,368	8,368	8,368	8,368	0	0	0
			(A)+(B)	千円	14,363	14,054	13,874	13,874	0	0	0
活動指標	アイウ	ヶ所		19.0	19.0	19.0	19.0				
対象指標	アイウ	ヶ所		19.0	19.0	19.0	19.0				
成果指標	アイウ	人		996.0	980.0	970.0	970.0				
		人		164,015.0	166,000.0	165,000.0	165,000.0				
上位成果指標	アイ	件		10.0	17.0	0.0					

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	甲西地区については、合併した年から開設し、他の5地区については合併前から開設していた。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	単独専用施設・児童館併設施設・指定管理委託施設・公共施設と児童クラブを開設する施設は、様々な管理者となっている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	児童数に対して児童クラブ保育室が狭く、ケガの危険性や育成上よくない施設があるとの意見がある。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☒ 取り組みしている ⇒【内容↓】 ☐ 取り組みしていない⇒【理由↓】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	県の補助金要綱・国のガイドラインを基に大規模な児童クラブについて、児童クラブの分割・新設等適正な規模となるよう、関係各所と協議している。
③ H 24年度に実施した改革改善の内容	

事務事業名	放課後児童クラブ維持管理事業	所属部	保健福祉部	所属課	子育て支援課
-------	----------------	-----	-------	-----	--------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 放課後の子どもが安心して過ごせる環境づくりが整備されている。	
	② 公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPO、市民協働に移行することは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 放課後児童クラブ事業が公営(市)で実施している事業のため、安価な利用料で市民に行き届いたサービスの提供が出来る。 事務事業の全部もしくは一部を外部に移行することが可能である。 ☐ 民間・NPO ☐ 市民協働	
	③ 維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 現状は、放課後児童クラブを公営で運営しているため、維持管理を維持・継続することは妥当である。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地 今後さらに事務事業の成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☒ かなり向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ ある程度向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由↓】 施設の中には手狭な施設もあり、新設・増設をすることができれば、今よりも良い環境の中で学童保育を行うことができる。	
	⑤ 類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない	
	⑥ 休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☒ 影響なし ☐ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 多岐にわたる施設の管理形態に応じての維持管理事務が既に児童クラブに対する市民のニーズは多く、利用も定着しているため休止・廃止は難しい。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 すでに消耗品等を一括して購入するなど、事業費削減につとめている。	
	⑧ 人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 既にパート職員を投与し、時間を最小限に短縮し人件費削減に努めている。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由↓】 適正と定められている規模70名を超え、100名以上の登録児童がいる八田・百田児童クラブについて、安全面・公平性からみても早急に対応する必要がある。	

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	児童数が100人以上の八田、百田を分割していくが、今後の児童数の推移を的確に把握する必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可	(3) 改革・改善による方向性																					
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☒ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☒ 成果向上(有効性④の結果) ☐ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト水準</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果水準</th> <th>向上</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td>☒</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td>☐</td> <td>☐</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td>☐</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> ※ 廃止・休止の場合は記入不要			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☒	維持	☐	☐		低下	☐		
				コスト水準																		
		削減	維持	増加																		
成果水準	向上	☐	☐	☒																		
	維持	☐	☐																			
	低下	☐																				
(2) 改革改善案について	(5) 事務事業優先度評価結果																					
① 市内18ヶ所の児童クラブの中で利用(登録)人数100人を超えている施設が2ヶ所あり、保育環境において格差が生じているため、分割・増築等について検討する。 ② 洗面所やトイレ、冷暖房機器など、低学年の児童が使用する場合に支障をきたす設備・機器については、随時、見直しを行う。	成果優先度評価結果 ⑧ コスト削減優先度評価結果 ⑥																					
(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策																						
① 児童クラブの分割や増設については、今後の人口動態を見極める必要がある。 ② 新規の施設については、設置する場所の選定が課題となる。(できれば小学校の敷地内が望ましい。) ③ 市が整備する場合には国などからの助成がないため、民間活用についても検討する。																						